

# 萩ジオパーク

## 推進協議会だより vol.57

萩ジオパーク推進協議会

| 2019年11月29日発行 |

〒758-0041

山口県萩市大字江向602 萩・明倫学舎本館2階

☎ 0838-21-7765 📠 0838-25-7767

✉ geo@city.hagi.lg.jp

🌐 <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hagigeo/>

📘 <https://www.facebook.com/HagiGeoProject/>

## 第10回日本ジオパーク全国大会・2019おおいた大会 2019/10/31~11/5



### 大会スケジュール

10/31~11/2 プレジオツアー(姫島GP(ガイド分科会)・豊後大野GP・阿蘇GP)

11/2 開会セレモニー・基調講演・シンポジウム・大交流会(大分市)

11/3・4 招待講演・口頭発表・ポスター発表・分科会・閉会セレモニー(豊後大野市)

11/4・5 ポストジオツアー(姫島GP・豊後大野GP・阿蘇GP)

※関連イベント：九州ブロックGPパビリオン (11/2)、全国GPブロック別パビリオン (11/3・4) など

### ○大会レポート

11月1日のJGN事務局長会議を含めて4日まで、初めて全国大会に参加しました。当GPから参加いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

内容は、日本ジオパークネットワーク設立10周年記念ということで、盛り沢山でした。その中で最も自分にとって有難かったのは、当協議会の顧問で公立鳥取環境大学准教授の<sup>ゆほらかずひろ</sup> 柚洞一央さんのお話でした。特別セッションとして急遽開催されたプログラムでしたが、ジオパークの理念とそれを表面的にしか捉えていない活動も見受けられる日本の現状について、スライドを使って熱弁されました。自身の経験・能力不足のため、お話の全てを理解できたとはとても言えませんが、「『地球の気持ち』に寄り添った社会を目指す、そのためにあるのがジオパーク」「これからも試行錯誤しながら、ネットワークや協議会の仲間と一緒に歩んでいこう」と、決意を新たにしました。来年の全国大会は10月25日~27日、島根半島であります。多くの皆様の参加をお待ちしております。

(事務局長 阿武宏)

# 第10回日本ジオパーク全国大会・2019おおいた大会 2019/10/31～11/5

## 参加者VOICE - 大会の感想を3名にうかがいました -



### 【萩ジオツーリズム協会 石飛 一枝さん】

昨年、初参加したアポイ大会（北海道様似町）に続き、おおいた大会も参加しました。昨年の大会で親交を持つこととなった鳥海山・飛鳥GP（山形県・秋田県）のガイドさんと、大分で再会。ジオパーク活動をしたからこそできた遠く山形県酒田の友人です。今年の大会テーマである、人と人のつながりの「輪」を実感しました。

彼女に勧められ、全国GPブロック別パピリオンの東北ブロックブースで、鳥海山・飛鳥GPのバーチャルガイドを体験しました。酒田で一、二という素晴らしいガイドさんは、とてもよく説明されました。萩GPの審査に来られた宮原先生とご一緒していたのですが、先生も「ガイドがよくなりましたね。」と。説明された内容は理解できましたが、やはり現地に行かなければ、良さが解らないかとも思いました。自分の目で見て、感じないと心に残らない、また、ガイド（説明）の良し悪しではなく、いかに心に響くかが必要だな、とも。そして、今自分たちが取り組んでいる「感動が体験で伝わる」ガイドがいかに大事か、と再認識しました。今大会の講演で一番印象に残った言葉は、尾池和夫先生の「今私たちは生きているが、この時代が化石として残った時に、きれいな化石になれるように、持続可能なジオパークでありたい」。微力ではありますが、ジオパーク活動を通してきれいな化石になれるように努力していきたいです。

### 【萩ジオツーリズム協会 斉藤 みよ子さん】

私は、ガイド分科会「コミュニケーション技術の向上」（姫島プレジオツアー）に参加しました。

北海道から九州まで、全国から姫島港に集まったジオガイド仲間の「お元気でしたか？」の声と、広がる笑顔の輪。仲間たちとの再会の喜びと、これから始まる研修にワクワク、ドキドキでした。

1日目は、福島大輔氏（NPO法人桜島ミュージアム理事長）によるワークショップが行われました。座学の後、全国からのガイド50名、姫島村から30名の参加者が2人1組になり、持ち時間2分で自己紹介をし合い、対話するプログラム。どんどん人が入れ替わり、わずかな時間で自分を伝える大変な課題をクリアした80名の参加者の熱意は、素晴らしかったです。

ガイドにとって雑談力が大切で、「話す」は3割、「聞く」は7割。そして一番大事なことは、笑顔。笑顔と挨拶で「好印象」を作り、ガイドスタート！これを実感したワークショップでした。

翌日は、地元ガイドの案内によるジオツアー。姫島は4つの小島が砂州で繋がって1つの島になったもので、約30万年前以降に活動した7つの火山があります。姫島一周ジオクルーズでは、海上から大きく傾斜した断層などを観察しました。次は、バスでジオサイト巡り。一番心に残ったのが観音崎の黒曜石。急な山道を登ったり下ったりして、たどり着いた薄墨色に光る露天の黒曜石に魅了されました。

2日目は、前日のワークショップのおかげで、参加者同士が自然に話せる、和気あいあいのジオツアーでした。今回の研修を、今後のガイド活動に繋がりたいと思います。



### 【萩テレビ 宮崎 星奈さん】

カメラを持って取材もしましたが、私も参加者の一人として、自主制作番組『萩ジオさんぽ』についてのポスター発表をしました！番組に興味を持って質問してくださる人が多く、嬉しかったです。今後も、大地と人のつながりに興味を持ってもらえるような、楽しい番組作りをしていきたいです！

## 萩ジオガイド養成講座、大成功！



11月9日（土）～10日（日）の2日間、萩城下町を舞台に萩ジオガイド養成講座が開催されました。2年前からお世話になっている（一社）をかしや代表の菊間彰さんを講師にお招きし、『知識』を“伝える”のではなく、『感動』が“伝わる”インタープリテーション技術を習得することに特化した今回の講座、13名の方にご参加いただきました。

昨年からの恒例になりつつある「明日、お客さんを案内してもらいます！！」からスタートした講座、ガイド初心者も多く「不安しかない」という声だらけだったのに、2日目には質の高いガイドツアーを提供できるまでになっていました。実際にモニターツアーに参加したお客さんたちは、「子どもも大人も楽しめた」「何度も訪れているが、こういうガイドならまた受けたい」「町を見る視点が変わった」と、皆さん興奮気味に語って帰られました。今回のモニターツアーは萩ジオパークの新プログラムとしてお披露目できるように、これから中身をブラッシュアップしていきます。どうぞお楽しみに！新たにジオガイドになられた皆さん、本当にお疲れさまでした。そしてこれから、よろしくお願います！



左上／モニターツアーの内容を考える受講者たち 左下／子どもから大人まで大満足 右／ガイドの立ち位置のトレーニング

## 萩ジオアカデミー④ 日本海の誕生

萩ジオアカデミーの第4回「日本海の誕生」が10月27日（日）に開催されました。講師は山口大学名誉教授の今岡照喜先生。午前の講義は阿武町の宇田郷公民館で行われ、大陸の端っこが裂けて日本海ができたことや、当時起こっていた激しいマグマの活動について聞きました。

昼食は地元阿武町の食材を使った「ダイニングカフェ846」さんのお弁当と、阿武町奈古でパン屋をされている受講者の池田さんにご提供いただいたモドロ岬をイメージした菓子パンという豪華なものとなりました。

午後は惣郷の海岸で野外観察。足元の悪い中、苦勞してたどり着いた先には、約1500万年前、日本海が誕生した頃に岩盤を貫いたマグマの通り道が見事な反り立つ崖がありました。帰りはみんなでゴミ袋を片手に海岸のゴミを回収して戻りました。プラスチックごみの山に、その解決策について議論する参加者のみなさんの姿が印象的でした。大地を生んだ地球の営みを体感するとともに、その中で暮らす上で大切な気持ちも呼び起こされた良い機会となりました。



1500万年前のマグマの通り道を見学



野外見学後は、みんなで海岸のゴミ拾い

## 「萩ジオパーク」、いろいろな学校で活用されています



イラオ火山灰層を訪れた山口大学生

前号で、白井専門員が小学6年生に行った理科の授業の様相を紹介しました。11月に入ってからいくつか学校現場へ出向くことができましたので、報告します。

まず、小学校へは、11月19日（火）・20日（水）と明倫小学校6年生全クラスで「大地のつくりと変化」の授業を行いました。教科書で写真が使われている須佐ホルンフェルスや火山灰が堆積した様子がよくわかるイラオ火山灰層観察施設など、現地学習で使用できる場所がエリア内にあります。今回、見学に行くことができない学校に対して、大人数への対応についての課題はありつつも、実験を交えた授業ができました。

中学校では11月7日（木）、萩光塩学院中学校の皆さんが、学校向けプログラムの中の「地球目線のまち歩きin萩城下町」を体験しました。また、12日（月）、萩西中学校1年生が、ふるさと学習で「笠山」についての調べ学習を行い、「火山としての笠山」を体感しました。17日（日）には、萩東中学校公開講座で萩ジオパークについて紹介しました。この講座は「開かれた学校づくり」ということで、地域の方に学校を身近に感じてもらおうと開かれているもので、萩の大地の成り立ちについて、実験を交えお話ししました。

そして、11月23日（土）、山口大学理学部地球圏システム科学科1年の皆さんが、地球科学入門の巡検として笠山とイラオ火山灰層観察施設を訪れました。イラオ火山灰層観察施設では、露頭の見方を学びながら、地層をきれいにいただきました。

萩ジオパークのジオサイトは小学生から大学生まで、いろいろな発達段階の教育現場で活用できます。お困りごとがありましたら、事務局へ気軽に声かけください。

## 津和野町でも、ジオさんぽ

11月23日（土）、島根県津和野町にてモニターツアー「大地×文化のまち歩き～城下町“津和野”誕生の秘密を探ろう～」が開催されました。津和野町日本遺産センター主催の行事で、同センターのコンシェルジュの方々と萩ジオパーク専門員の白井がご案内するまち歩きツアーです。地元の方のみならず近隣市町村から26名の方々が参加されました。津和野の町並み散策から始まったツアーは「津和野のまちはどうしてできた？」をテーマに町並みや神社、酒蔵などを巡って、城下町誕生のルーツを大地の成り立ちまで掘り下げて解き明かしていくという内容。難攻不落の山城「津和野城」とその麓に広がる城下町は、実は断層や火山の活動によってつくられた“ちょうど良い”土地に築かれていたのです。津和野のシンボル「青野山」は、良い地形を生み、良い石材を生み、良い水を生んでいたと説明を受けると、その後のまち歩きはこれまでと視点が変わったものとなり、みなさん目を輝かせ、驚きの声が絶えませんでした。今回の企画は津和野町日本遺産センターが萩に視察に来られたことがきっかけでスタートし、白井専門員が何度も津和野に通い、コンシェルジュの皆さんと一緒にプログラムを完成させました。昔から定番の萩・津和野観光に新たな風が吹き込めたのではないのでしょうか。



津和野の城下町ができたちょうど良い土地は、断層と火山のおかげ!?



行きも通った神社だけど、帰りは石材が気になるように

## 食育でも大地が大事

11月24日（日）に道の駅「萩シーマート」を会場に、コープやまぐち つたえるHOKUBU主催の食育体験プログラム『和食のひみつをさがろう～さかな編～』が開催されました。小学生対象で、ふるさとの海を知り、魚のさばき方や売り場を見学し、魚を使ったお昼ごはんをつくって食べるという内容です。萩ジオパーク専門員の白井も萩の海についての解説を担当しました。普段食べている新鮮で美味しい萩の魚は、小さな火山がいくつも噴火してできた萩ならではの海の世界が育んだものということ、イラストや地図、火山実験を用いて解説しました。子どもたちはその後、魚屋さんにプロの魚のさばき方の実演を見せてもらい、活気ある売り場で旬の魚が売られている様子を見学して、最後にはアジを使ったお昼ごはんづくりに挑戦しました。食材が生まれてから自分の口に入るまでの過程を、身をもって知ることができたようで、実食時には「いつもより美味しい」といった声が多く聞かれました。「食」は、人が大地に支えられて暮らしていることを最も実感できる分野かもしれません。今回の行事を通して、スタッフの皆さんにもその重要性を理解していただけたようです。今後も連携して萩らしい食育プログラムをつくっていきましょう。



魚を育む萩の火山を実験で再現



自分たちで作ったお昼ご飯（アジの照り焼き、おにぎりなど）



萩ジオユニバース

## 地球を食べる食堂 始動!

12/15

第1弾は阿東の徳佐りんご



皆さまお待たせしました。地球を食べる食堂が始まります。

### 「地球×生産者×料理人」

大地を生んだ地球の営み、大地と向き合う生産者の知恵と技、そして食材を調理する料理人の知恵と技の掛け算が、極上の体験を私たちに提供してくれます。

『地球を食べる食堂』で、大地と人のつながりを楽しむフルコースをご堪能ください。今回のメニューは、阿東の徳佐りんご。皆さまのご参加、心よりお待ちしております。

【日時】 12月15日(日) 10:00~13:30(予定)

【内容】 野外(自然や農園)の見学と食事をする体験型の講座です。

《前菜①》徳佐盆地のヒミツ~断層と火山、そして湖~(野外見学@船平山)

《前菜②》徳佐りんごのヒミツ~こんな南でなぜ育つ?~(@白松りんご園)

《メイン》りんごづくしランチ~地球を食べよう~(@地球食堂)

《デザート》ごちそうさまでした~記念撮影~

【集合】 道の駅「願成就温泉」(山口市阿東徳佐上2-95)

【参加費】 2,500円(食事・土産代・保険料) 【定員】 20名(先着順)

【申込み・問合せ】 萩ジオパーク推進協議会(TEL:0838-21-7765)へ(平日9~17時)

受付開始:12月2日(月)、〆切:12月10日(火)

【その他】 ・野外へ出ますので防寒対策をしてきてください。

・講座中の移動はマイクロバスを用意しています(希望者は萩市役所前から送迎アリ)

・未就学児は無料です(ただし食事・土産はありません)

## 12月の予定 - Information -

●萩ジオアカデミー講座#5「阿武火山群②」 12月1日(日)10:00~15:00 場所:福賀公民館 内容:龍が通った道・伊良尾山の火山活動を中心に学びます。講師:清杉孝司(神戸大学講師) 定員:30名 参加費:1,000円 主催:萩ジオパーク推進協議会 問合せ:萩ジオパーク推進協議会事務局(0838-21-7765)

●地球を食べる食堂 12月15日(日)10:00~13:30 場所:山口市阿東徳佐 内容:詳しくは上記参照。 定員:20名(先着順、12/2受付開始) 主催:萩ジオパーク推進協議会 申込・問合せ:萩ジオパーク推進協議会事務局(0838-21-7765)

○geoとも(萩ジオ友の会)定例会「ジオ談義」 12月21日(土)13:30~16:00 場所:萩・明倫学舎 内容:今年の活動の振り返り 参加費:実費 主催:geoとも 問合せ:geoとも西嶋(0838-26-6123)

※●の行事に参加される場合は、必ず萩ジオパーク推進協議会事務局(0838-21-7765)までご連絡ください。

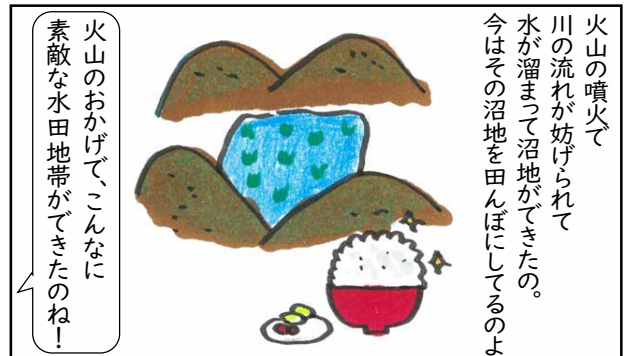
# がんばれ!半田くん

原作：わっきー教授 画：白玉だんご

## 第18話 宇生賀イネ登場



## 第19話 火山がつくった水田?



※「宇生賀の七不思議」 宇生賀地区に古くから伝わる7つの伝説。詳しくは「農事組合法人うもれ木の郷」さんが紙芝居を作られています。ぜひご覧ください。 <http://www.umoreginosato.or.jp/>

# わっきー教授のつぶやき ~ひとこと解説~

今回は、阿武町宇生賀地区のお話です。笠山ちゃんの親戚の「宇生賀イネ」さんが登場しました。美味しいお米を食べているらしく、堂々とした体格ですね。声も良く通りそうです。宇生賀地区は、阿武町の南部にあり、伊良尾龍くんの家のある伊良尾山の南西に当たります。



「華厳の滝」と奥に見える堰止め湖「中禅寺湖」  
©公益財団法人 栃木県観光物産協会

阿武町一帯には、白亜紀の火山岩類が広く出ていて、白亜紀は1億4500万年前から6600万年前の時代で、恐竜が絶滅したのが今から6600万年前です。とても古い岩石ですね。この岩石の間の割れ目を伝って、今から30万年前から20万年前くらいに噴出した火山（阿武火山群）が、宇生賀の盆地を取り囲んでいます。阿武火山群は、単成火山群で、一度噴火したら同じ場所では二度と噴火しない性質を持っているので、それぞれの火山は、何もない所に突然、不意打ちのように噴火します。宇生賀地区でも、白亜紀の火山の岩石が作る山の中を、河川が谷を刻み、日本海へ流れ下っていたと考えられます。そこへ突然の噴火。マグマは、地表の様子など構わず噴出しますから、噴火するまで流れていた川の流れの途中に噴出したりすると、川の流れを妨げて、川の流れの方向を変えたり、川の流れそのものをせき止めたりします。川の流れをせき止めてできる湖を、「堰止め湖」と言います。あっ、風邪を引いたときに役立つのは咳止め粉なので、それとは間違わないようにしてくださいね～。

日本には、そのような堰止め湖が沢山あります。日光の中禅寺湖、富士山周辺の富士五湖、上高地

の大正池などです。日光の「華厳の滝」は、堰き止められた中禅寺湖から流れ出た湖水が雄大な滝の風景を作り出していますね。

さて、宇生賀地区の話に戻しましょう。この地区では、東側に西台、北西側に高牟礼山、南側に権現山と火山で出来た山で囲まれています。当時の河川は、東

から西に向かって流れ、現在の大井川に相当する河川と合流し、最終的に日本海に流れ出ていたはずですが、その河川が、火山の噴火とともに流路をふさがれていきます。そして、最終的にカツエ坂峠の南にあるスコリア丘（鍋山）の噴出でとどめを刺され、川の水の流れが停滞してしまいます。そして、宇生賀には盆地が形成され、泥や水がたまる沼地になっていきます。こうして、山間地にはめずらしい比較的広くて平らな地形ができました。昔の人々は、この沼地の水はけを工夫し、稲作に適した耕地へと変化させていきました。こうした努力のおかげで、今では美味しいお米が沢山とれるようになっています。盆地の東側にある溜め池も、そうした努力の一貫として、整備されたものと思います。

私は、「ぼんち」と聞くと、「ぼんち揚げ」を思い出します。おいしいですね。宇生賀のお米で、ぼんち揚げを作ると本物の「盆地揚げ」になるんですが、誰かやらないかなあ～？関西弁の「ぼんち」とは、若旦那のことらしいです。半田くんは、落語に出てくるアホな「若旦那」っぽいですねえ。



宇生賀盆地とそれを取り巻く阿武火山群